

琉球王国の守礼門

ゴールデンウィークは一年中で最も過ごしやすいベストシーズンである。とは言っても同じ日本でもここ沖縄は、私にとって蒸し暑く耐えられないほどの暑さであった。

守礼門は首里城にある牌楼型の門で、日本の城で言うところの首里城の大手門にあたる。4本の柱で支えられ二重の屋根に赤い本瓦が用いられていた。如何にも中国文化の影響を受けた琉球王国らしい南国の明るさを感じられる。しかし残念なことに沖縄戦で焼失。1958（昭和33）年に今の守礼門に再建され県指定文化財になっている。



守礼門とは俗称で正確には門に掲げられた扁額にあるように「守禮之邦」である。これは琉球王

国第6代尚永王（在位1573～1588）の時に扁額が作られたもの。その時に中国皇帝からのめ詔勅にあった文言で「琉球は守礼の邦と称するに足りる」というくだりからきている。

私は沖縄には今回で2回目の訪問。前回は団体研修であったため観光バスで立ち寄ったが、城壁と守礼門がポツンとあっただけであまり記憶に留まるものではなかった。守礼門はこれまで写真では何度も見ていたが、訪れた観光客を落胆させる「ガッカリ名所」の一つに挙げられているようだ。

戦後首里城跡地は一時琉球大学のキャンパスとなっていたが、1992（平成4）年移転に伴い正殿など大々的に復元。それまでは守礼門が沖縄のシンボリック的存在として広く知れ渡っていた。2000円札にもデザインされ、切手、ポスター等にも採用されている。今では世界遺産に登録され見応えある場所となっている。

撮影 2011年春

